

30年度 災害時等連絡体制整備への取組みについて

(埴原南) 町会

発表者：百瀬町会長

| | |
|---|--|
| <p>取組み方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの時間。回数。メンバー等 ・話し合いの中での意見 ・災害時に支援を要する人をどの様に把握したか ・災害時に支援を要する人はどのような人と決めたか | <ul style="list-style-type: none"> ・正副町会長、民生児童委員、常会長全員で今までに3回話し合いをもっています。 ・個人情報には慎重な扱いを必要とするが、普段からの付き合いを深め、理解していただくように努めていこう。 (生命を守るために) ・要支援者の把握は出席者全員で、65歳以上の単身者、75歳以上の全員としたが、子どももリストに載せるつもり。ほとんど全戸が対象となっている。 |
| <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が誰に伝達するか。連絡網はできたか ・連絡網にはどのような町会役員が関わるか ・避難所移送の支援体制は整ったか | <ul style="list-style-type: none"> ・一応できているが、日々情報が変化するため、どのように差し替えるかが課題。 ・常会長、組長・民生児童委員としているが、居合わせた者が分担することになると思う。 ・ボランティア登録してあるが、発生時に地元に住居する者が協力し合い、移送することになる。 |
| <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援体制を町会内でどの様に周知するか ・町会ではどのような支援体制を組織する予定か | <ul style="list-style-type: none"> ・町会内の催し、会議などで、危険発生時に連絡する体制があることを周知する。 ・自主防災組織はできているが、どのような状況で災害が発生するかわからない中で、役員以外のボランティアを増やしたいが、高齢化の壁があり苦悩する。 |
| <p>感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援体制整備で特徴的なこと | <ul style="list-style-type: none"> ・組長、常会長などが高齢化している。 ・要援護者がデイサービスなどを利用している場合、行動がつかみにくい。 ・試行錯誤の連続になる・・・ ・要援護者名簿は「いざ」という時まで開封しない。信頼関係が鍵となる。 |